



Title	特講 1
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1957-05
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77307
Type	manuscript
File Information	K013_011325.pdf



[Instructions for use](#)

71

特 集
昭和三十一年五月



50

住居の社会的意味

家族は血縁者であったから強固な団体で

あったのではなく、家族は同居者であったから

強い団体をなして来たところから来たのか。

同居同財の団体は世帯^{（個人）}である。世帯の成

には家族の^{（個人）}が中心であるとは限りぬ。又同

居して片々家族が同財とは^{（個人）}考へられぬ。

和室は今日では、家族を社会生活の単位

位とはよい得ない場合が多い。けれども

同居同財の団体はそれが家族による

構成される片々やるとは家族による構成

される片々やると、それは明らかに社会生

活の一回単位をなして片々である。

和室の家族は行政的家族で、同居^{（個人）}家族が自
然的家族と云へないか。それが社会生活の単位である。

都市と村落の別

一、経済的機関の存在

二、良社^{社会的}の流通関係の構造

三、機関とは何か

生業の意味

商人と素人

合理と愛憎

四、機関集合としての都市

従来の都市観は皆も副次的現象

によるものである。

一、人口大人の稠密、人口流動

二、人口異質、一連地集落

- 一、此分 ^{同知} 支配の番号制、非人同的
 - 一、此分同知の一時的一面的、他人的
 - 一、今世の世界と人情の世界
 - 一、購買の同知と非世同知
 - 一、非知の此分と既知の此分
 - 一、支配の此分と被支配の此分
 - 一、義、現人情の世と世と
- 未決済の要互知作同知

後者の見方への疑問

一、同居の家族——家族と生活の連続

二、生産生活と消費生活——生産生活と生活

三、職業と生業

四、厚及作用関係

五、素人と主人

六、重買人

概念の整理

生業の合理

一、職業、生業、重買合理

一、機關、経済的機關合理

一、同居、世帯、家族、同居関係

一、自然家族、近隣、自然村落、自然都市

自然の意味
作らぬに努力を要す。人為
こわすに努力を要す。自然

一、厚及作用関係——親の仇討ち重買

私の都市社会学における三つの
基本的理論

一、社会的交流の調節としての都市

二、都市の社会構造

三、都市の生活構造

右の結果としての社会学

四、都市の社会関係の形成

機關と生業

社会的機關に從事して人の生業は
サービスマンたる機關に對して補助を以て
する事。然しその機關の機能は社会的
の役を以てする。社会的の役を以てする
その機關は、後業員はそれサービスマ
ンたる事である。社会的に於ては
いぬは機關としてである。生業は
物かサービスマンたる事である。生業
が社会的なる場合もある。それは左の
生業の機關としての御事である。
一人孩童のやむを得ず其の生業は
生業としての機關として社会的である。

生業はすべしカーヒスの交際である。
生業は總て他人に及して片が、機因
は他人の生業による成る場合もあり
他人の生業の場力による場合もある。
昔は宗族の場力による場合が多
かつたが今は近宗族的他人
の場力による場合が多い。
機因には子弟となるものとなりぬ
ものがある。機因の活動が、甲より
乙にこれに流すの役割を演じて片
のものは結節的。物ルフいで然るものは
は高貴の機因、心ルフいで然るものは

従可、る私をど。

工業は材料や技術を伝達す。

申今の構図

物に技術しれたぬ労働者は交易の

の所へ入る者極かた。 協働はは 本来人は物か

技術を互らに交換しあ、て生かす

よのてあ、かりん。 とうてはなへ人は

物と技術のあ外に労働力を交易の

所系として片。 協働力の提供のみ

か非結節的と思はれ。 故に労働を交易の所を定む。

か産業の技術は常進化して片、る累

た、労働と辞され、片、る総てす

2。
他の程々の店に交り、
それ又、
希御より、
進、
さか、
し、
片

余の都市社会学における都市の
基本的理論

を一身の社会的交流の諸節と

しこの都市(都市の機能)

都市は(1)民間資本に於ける社会的諸

節としての機能を果して居るのみ

ある(2)は資本主義(1)に於ける

社会的主義(1)に於ける(1)と云ふこと

法に於ける(1)と云ふこと。

此考へたるは諸節的機能を有

して居る(1)村落との対比と村落

と都市との類概念とす(1)東京

落(1)の概念とす(1)東京

よあ。。

生活

○これ 都市の空間的地理的構造

の中に ~~都市~~ 散在する村落を

都市との配列 ~~形式~~ として

の都市 ~~の~~ 配列 ~~は~~ 又曰民衆の居住

の概念 ~~は~~ 但 ~~は~~ 可成り

の概念 ~~は~~ 然 ~~ら~~ 措定さよ可

あ。。

私は可成り ~~は~~ 共同

の機能と生活 ~~の~~ 機能

の機能を ~~は~~ 二つの機能

は現在の都市 ~~の~~ 機能

地理学

◎自然近隣に對して自行政近隣

自然村落に對して行政村落

自然都市に對して行政都市か

有^しす。自然民族の行政民族か

人の地域的協力の必要を認め

の動員に行政が助けを^{又その}何れの

時^式も政治が随伴して行なわれ

思はれぬ。人の世の文化の発展

は^も罪悪の成長と共に都市に政治

と共に政治と共によ^う保障さす

とある様に思はれぬ。この文化形

態としての政治が始めると人類の生活は抱

都市に於ける組織的に

とあるは古代に於ける急

め打ちといふは^{主として}ない。共同防衛の機

能は政治体の活動として生活費

協力の機能は^{軍事中}経済の中

に^{存在する}を認め、^{生活活動}を共に担

りては生活協力の機能に入り

政治体の活動に期待して[◎]

果ては[◎]経済的交渉の

際[◎]は[◎]政治的交渉の

しこの都市の機能を[◎]容易に

定せしむ。又都市が[◎]政治的交渉

の[◎]機能を集めて[◎]は

と思はれぬ。是れは[◎]政治的交渉

子供の機能を要す

都市のその専らに在り。機同が

集あつて片よかりである。かくの如き

子供の機同の有しなれば

の村落は子供の役に果して片

あり。一軒のみの存在する

村落は五れ又都市性としよ

りさよを念んて片よ高きは

一つの子供の機同であるかである

。彼れが如何に便宜かあり

。彼れが如何に便利かあり。その村落の

都市性を高きへ行くもそれ等の

ものは何れも皆子供の機同である。

集あつてよとの都帯は必然的に
人々が多く稠密な所高い。人々
か多から都帯はた。都帯はあ
みから人にか多。

同様のものは人の流動性質や
大なる連坦取落をよと標を外景
についても社会関係はたよと標の
特徴についても。然し社会関
係はたよと特徴の認知的のるんは
更に都帯の内訳にたよと標
差を見なければたよと。

移り帯り合理的組織されし片に配列する
の~~中~~唱しおなくの~~民~~統制組織

の中にあつた。其の地域の組織の

~~中~~中果より四方に向つた
の~~中~~果より四方に向つた

者幹幹より更に大枝が分れ大

枝毎にや枝が分れし片に。今に

の~~中~~地域専ら及んし片にこの

大なる樹枝の~~分~~分岐毎にその~~中~~中

に~~中~~中いして大なる~~中~~中の官庁~~中~~中

分岐や工物や商店や友が

な文化の移るの方面の機關が~~中~~中

其の片に。統治の爲の~~中~~中

流の分岐とを~~中~~中官庁、経済性

分は下吳をとり

の支配、

交流のみの際府也守社

他及し申の形の新地

の^{この}地^の失^を在^に同^かる^を

心^は来^たる^の片^の也^は大^の都

市^の也[。]

官^の方^は申^の突^の揚^の同^の申^の

都^の市^の也^の利^の也^の支^の配^の

行^の漸^の次^の下^の級^のの^の也^の

序^の也^の。中^の央^のの^の官^の序^のは^の

を^の支^の配^の也^の申^の都^の市^の也^の

道^の府^の也^のを^の支^の配^の也^の官^の序^の也^の

所^の打^の役^の也^のの^の可^の在^の也^のと^のら^のは^の也^の

争次下の都市である。中央より
支配の段階に應じて友大申々の
都市が足らぬことは官庁に
いふまでもない。文化のありゆゑ
方角に依りてより高く支配す
地味人かより大なる都市にや
と云ふ傾向は^明海軍すすむべき
本来支配する者として若し
は征^明服^明する者として若しの対応
として^明其の文化が生じてゆくもの
ありや。故に人は条件に支
配する者^明は征服者の特徴や地味也

①

都市の比喩を構想と性格は
現代の資本主義国家に於いて
かつての封建社会の国家に
似たりや別君主の古代国家
よりもさへも同様にして
様に考へてはよ。

更ハソビエツトの都市も中共
の都市も決して異色を
之と見てもよい様に考へ
かある人の利己的悪意が
以上

凡そ人間の此方支配を統治か
る以上都市は必然的にその
格のものとして存するの
なればならぬ
はけぬ。

中都市や都市の順位が下
つ水より低い地位より低い支
配、故により低い階級より低い
芸術より低い純消費が
身より低い、然し都市は
市街地は、
以上わさいたが、
字とあり、芸術は、
大甲の支配階級の
支配される支の人
の地位は、
以上

②
都市の本来的な
階級と
階級を
の
中
に
は
な
ら
ぬ
。

カニ著ト都市の社会構造

一、都市生活の復雑錯一性

二、混雑性の強さ

三、正帯人口の過剰

人同一性の型はあま

四、正帯人口の正帯生活

一日の生活の型 職場と家庭

と家庭

一日の生活の型 職場と家庭

正帯人口の正帯生活

職場と家庭と家庭

生活集團 地区集團

五、都市生活の中心は主要なる五種の集團

と相互に結合する關係

六、その社会的意義

今日の大都市の生活は甚だ思案所及的
な人口の多き^{（にやうじんたかき）}集積^{（しゆく）}流^{（りゅう）}初性^{（しゆじやう）}多し
故に民衆^{（しんしゆ）}の^{（変化多き）}都市生活の中に
此の^{（的）}秩序^{（じき）}もや配列^{（はいれつ）}を定むる事は
不可能^{（ふかう）}なる程^{（ほど）}に^{（進）}歩^{（しゆ）}す。大都
市の生活^{（しやう）}を^{（統一）}的^{（てき）}に^{（統）}理^{（り）}す。す^{（て）}
絶^{（ぜつ）}對^{（たい）}し^{（て）}人^{（じん）}の^{（多）}き^{（い）}
然し^{（しか）}現代の都市生活が複雑なる秩序
を^{（又）}変化^{（へん）}多^{（た）}なる^{（は）}思^{（し）}め^{（ら）}れ^{（し）}て^{（も）}然^{（し）}
都市の^{（統）}一^{（てい）}性^{（じやう）}和^{（わ）}の^{（家）}庭^{（てい）}の^{（日）}の^{（生）}活^{（か）}が^{（昨）}日^{（けふ）}
今日も^{（恐）}ろく^{（おそ）}く^{（暗）}白^{（あんぱく）}し^{（同）}様^{（どう）}な^{（生）}活^{（か）}の^{（形）}
を^{（變）}更^{（へん）}し^{（て）}居^{（ゐ）}る^{（事）}あり^{（ま）}す^{（と）}も^{（又）}
又

東京生活の~~生活~~ ^{生活}を幾分よく~~知~~ ^知るべきと近

隣の甲の家に泊りしことの~~家~~ ^家の~~泊~~ ^泊り

さうである。どの家でも毎^{主人カとは}日一定の時刻に

おしゃべりをする時刻に~~来~~ ^来る。子供

が~~各~~ ^各に~~行~~ ^行く様子も毎^{大抵}日同じ時刻に

ある。家に病人^{どの家でも}もなるといふ人も

調査生活のリスレは^{どの家でも}一年中存くう

と~~居~~ ^居る。この生活は自分の近隣に

ら~~上~~ ^上と~~下~~ ^下と~~な~~ ^なる。市民の~~大~~ ^大部

が~~各~~ ^各に~~居~~ ^居る。この生活は自分の近隣に

都市はたゞ程々秩序~~で~~ ^である混雑を

め~~つ~~ ^つて~~変~~ ^変化~~し~~ ^して~~居~~ ^居る。この生活は

① 有教

成る場のハヤツヤルは都から客が来ると
田舎の國は人がいっしぬいっし
都令の人はおんてんおん見えよ
わしろう客であらう

甲の家で葬式か出て居るのに五の儀の儀

いは婚禮の祝宴かあけいれの儀の儀

に深夜に二人の足音は入るの儀

そんならいふ事の儀

平生の事柄は多岐の儀

都令をその儀に分析しやうと思へば

都令の生活の

都令には正帯な人は由か多岐

と共にお常帯を人にし多岐

生活をもとめて居る多岐

人知れぬ事多岐

有生活し多岐

都令の

病をなす

劇場の客が満ちたし、病院

に入院者が満ちたし、都市の人々

は病人や病が酒の店の人々を

悩ませ、その子の人々によつては

先産か、病苦はなへ、

先産に経てし人々の生活の内

にこそ、都市生活の基礎的構造は

あまのこは左へかとは、

まへ、都市の魂

知るは、都市生活の中における

新知り陰をしのぎ、

楽し海新物は何のあか、

混雑物と

◎ この頃は多少の争合のすかし
ありとしし何れも民族何れの
時代にも大抵に云いおろしあふ

田舎人の生活は田舎生活に外たうぬ。

正帯人にも考へるは人の一生の正帯

刑正帯生活も早れば一日の生活

の正帯形を明かす。ゆるぎ

ゆるぎは 必帯か

入の一代の甲。吾令に直す直は母の

疎々に生活してたうけ正帯

学令令の者し生帯に後

止はる程に運わ若か正帯

学れを止は老務意に正は業の

経くして片よのか正帯

老務意は古くかの習帯は子帯

子帯に扶養いさぬ

子孫の世帯に延びて行くのか

素の型であった。

（おつぎに）

右の如きの生活に時代的な拘束を

受けて行くは、^若は古習時代の者を生

き時代の者^若とて、^印現^世の老^衰者

とは、^異常^人の^と異^なる^一般^に生活^の

目的^的な拘束はなへ、^時代的

拘束^を受^けて^は、^積極^的に

争^う可^き責^務が^この^力者^とい^ふに

う^れて^は、^積極^的に

的^に争^う可^き任^務が^この^力者^とい^ふに

と^老衰^者には^おか^へら^れて^は、

その^この^力者^とい^ふの^階級^の人^は

◎ 異常な人々も多く、場合同様である。
 人はこれ等の人には果たす可き
 妻多勝を深き戸をいからず物
 系七しそののであり。

◎ 先生貴人の水十五才一六十才也
 と其れその前の年合階層を
 かの先生貴人の呼ぶ場所合の
 は半生をめぐらししと階層の力
 によりて区別してある。之れは
 習俗と云ふべきは多親なるべし
 耳よ。

社会学の両生児の構の中
 は階層を可なり地位をしよう所
 即ちそのよるべきを意味する。◎
 然し其れは、強りの二つの階層即
 ち習俗の階層と社会学の階層
 人々にはよるべき社会学は
 推進されし階層より進むべきはな
 習俗時代の人々は階層に可なり
 之れから今日の社会学感を支配する
 耳よ。又社会学時代の人々は皆職
 階に可なりし職階のゆえに後つて
 一白の主要時代が支配するべし。

場合もあり得る

下しすむのは幸福を現代の自由人

である。

集団化し

戦場でもあれも近代化と共に集

団化愈々大規模の組織化を進め

て

東洋人の生活の本質としての
世帯の

都市生活が職場と学術を基

盤として片よりは学術型に考

へし

都市生活の中に存する様々の

集団を調査して是れは右の三

者の外に生活拡張の為の様々の

余暇生活的な集団が有るべき。

近代的都市に足るは探るの文化
同好の集まり。スポーツの集まり
信仰に因り集まり然りてあ
る。然し是れ等のものに何れも
云はば余暇的の集まりであつ
る。及し職場等の生活定
金を保証して在し得るものは
此の生活拡充の爲の集まり
の一種ではあるが、特殊階級の多し
の地は同好の集まりの一種と
して私は分類して居る。行政的
の集まりの集まりである。



には柏果はなつか、その地区はゆの

金世帯を成るものとすの加入半生を以ては集團

加入である。其の金員加入を

則ちし行政の末端機關

實質上

となりぬ。ものへあふ、今日氏

地区集團は全口の都多の伊

す、有する。ふはルリをい、けれど

し戦時中に打け、断り急の

活動は口民の多々懐に新なる

事。

と云ふに封地である。然し一般の

生活活動交集團は自由加入

であつてその集團が他人を拘束

する力はなしである。他人が

自由意志にしつづいて構成す。

集團である。され又は職場の

余暇に活動するの成立を以てす

。地区集團は余暇集團である。

都多に存する社会学集團は集團

は氏名の五種の内の数れかにな

す。と思はれる。そして氏名の五種

の内世帯と職場とを以て五種

が基礎のつちのまゝであらざる

は都帯にすむ人々の生活の中心

である生活の本據

帯に在りては

揚城の時々の規定は絶対のもの

と思はれ

同や地色集の同の活動の時々の

規定も各社や職域における活動の

全眼を初開するものとせしめ

るべきを以てしるべきと職域の活動

か世帯の活動の中核と見

るべきなり

世帯に於ける活動の中心

各社と職域が

日々の

了世帯の活動の半袖を

よりよるよりの大作にはよりしなさを

都市住民は比喩さうである

を言明す。何れの世帯にも

しやい都市住民は甚大田舎

帯を場合にのみ考へてい

てある。

以上のよりほり実の調査

を来りていである。

都市人口と田舎人口の比率

の算定は亦た充分破産は

ないけれども都市の一区別

他にの世帯内における生活の
時より学校と職場における
時々の思想のちがひとついで
精成を水戸よりあつた
調子よつて明かである。

に於ける総人についての算定したる
係や若干の都市に於いて命令
に達した児童のついでに入ると
や入学免除者との数と入学する
の数の何年かには比率的に
は異常人に教が甚だ少い
あつたは確認する事か
た。回
けれども大密に草花を
戸の都市には異常人に教が
巨大であると共に異常人に教
も大きくあるが都市内に集

まう、^{この}田舎中人にや田舎
の生活は、^{その}以上にも若くは
。

都市と云へば、^{その}豊か
人の生活、
長の目を拓く、^{その}恐ろしいと云う
り、
東京が、^{その}氏、^{その}東京は都市生活
の、^{その}浮世は、^{その}あつと、^{その}いふ、^{その}招き、^{その}る、
印、^{その}あつと、^{その}は、^{その}あつと、^{その}いふ、^{その}招き、^{その}る、

都市の中心街の、^{その}繁華は、^{その}は、^{その}あつと、^{その}いふ、^{その}招き、^{その}る、
を、^{その}あつと、^{その}いふ、^{その}招き、^{その}る、
犯罪者や、^{その}浮世の、^{その}結が、^{その}横、^{その}行、^{その}いふ、
は、^{その}あつと、^{その}いふ、^{その}招き、^{その}る、

いふであらう。

意くするに各軽漢いほなる日は
都市の住民は知らないうはな
犯罪とや浮浪の徒は^{殆ど皆}多く
都市の田舎者人々~~は~~である。各
令期にあつては松に行かす生業
期にあつては生業の後をせす
その由く田舎者生活をくりかへし
て片よ人にはあり。生業の暇
を扱くのは~~而~~せん人であつて
都市の正業人^{殆ど皆}にはなつ。
田舎者人の正業^{生活}が其はく
くり返して是の景洞を生活のり

ス△は都市の混乱を思はしむ
もなき正しに規律ルをついけしむ
けしむ申御の御強には余
の口も何んかの犯罪者か強はし
たむあり。都市はそんなをこ
でし。

何者し

一、生活構造の意味、社会構造との関係
二、生活構造の歴史、時代の推移
三、生活構造の地理、空間的推移

第四卷 都市研究

第五卷

都市の生活構造

生活構造とは社会構造とを混同
し得るものなり。

社会構造は特定の複合社会
を以て家族や村落や都

市や()良否の類か如何なる

社会的構成をなして居るか

を明かにする事と爲るに分析の途

上に没定した概念である。

社会の構造は社会の組織の総

體化の形に於いては、社会の

社会関係、前社会的統一の

三類の社会の統一の形態は
記号として、後述の後合的
社会はこれ等の社会的要素
が如何に組織せられて構成
されるか、^{なる}組織の^の種類^のによる^の構成^のの
社会的特性を呈示しよく説
解する。すなわち、^{それ}社会の
社会的要素の組織を^と
して社会を^を理解せんとす
る。社会の^の組織^の理論^の
を^を説明する^の概念^のである。
特に社会集団の^の組織^の概念^は社会

然し我々構造は空想下の

東洋の如くは此の構造は
は平帯と田舎との間はあつた
かと思はれる。生活構造
は平帯の帯の海を流す上
て片方へまゝに流れて居るであ
らうと思はれる。

此の頃は近時種々の用ひに
居るが此の如くは限定的に考へ
て居る。

の如くは此の構造の分析と
生活構造の分析は必須
と思はれる。#

此の構造の分析も生活構造の
分析も巨大にして複雑な後
全体的な先づ巨視的に
現象の二次的な部分的
分析の如く分析がなされて
居る。此の位置を時々の如く
同的に行ふ為に行ふ此の
如く。

時代の秩序

題

時代の秩序の概念は

従来秩序のみに依りて是れ

乙事たるに非ざる。

人同生活に依りて時代の秩序が

如何に必要なるかは是れ

が如何に必要を規制しし人

の生活を支配し人の生活を

秩序づくるかは如何なる

を親したる集団の活動が若し

うたないよりかより知よりか

とす。一は如何の生活か如何に

時代の秩序の如何なるに

概気

この本、一冊、一月、一冊

を週期とする生活の秩序が、

如何に多く、如何に規則的であるか、如何に生活の秩序が

人の生活を規定して行く時、的

秩序の決定に及ぶ時、

的秩序は、生活の秩序に及ぶ時、

的秩序は、生活の秩序に及ぶ時、

である。重要なる又

時々の秩序は、生活の秩序に及ぶ時、

を予見し、生活の秩序を予見して

行く。

曲の終りに、テンポのある、生活の週期